

# NRU-east

National Railway Workers' Union

No.852 2023年  
1月1日

国鉄労働組合東日本本部  
港区新橋5-15-5 交通ビル7F  
発行責任者 伊藤 隆夫  
編集責任者 常盤 達雄

つなげよう次世代へ  
届けよう私たちの思い  
仲間が声を待っている



## JR世代組合員学習・交流会 国鉄労働組合東日本本部

執行委員長 伊藤 隆夫

# 「闘春」



組合員・家族の皆様、新年あけましておめでとうございます。

今年も新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中で新年を迎えることとなりました。昨年は、何かと暗いニュースの連続でした。2月のロシアによるウクライナへの軍事侵攻は長期化し「戦争」は過去のものではないことを思い知らされました。国内においても、台湾有事やミサイル発射を繰り返す北朝鮮の脅威を理由とし、戦後の日本が掲げてきた憲法9条の下での「平和」がかつてないほど危険な方向に向かっています。

岸田首相は昨年末、他国領域を攻撃できる敵基地攻撃能力（反撃能力）と防衛力強化のための国家安保戦略、防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画の3文書改訂に踏み切り、その財源の確保に向けた増税を明らかにしました。

長距離の巡航ミサイルなど、これまで保有してこなかった敵基地攻撃能力を実際に持つことは、専守防衛を逸脱することになり、安倍政権下での特定秘密保護法・集団的自衛権行使を求めた安全保障関連法に続く安全保障政策の大転換です。

同時に、自衛隊が民間用の港湾や空港を平時から利用しやすくなる仕組みの導入に向け検討に入ったとの報道もされています。

軍事力に対し軍事力で対抗することが地域情勢の安定につながるものとは到底考えられません。私たちの交通運輸産業は平和の上に成り立つ業種であり「武力で平和はつくれない」と声をあげましょう。

さて、コロナ禍以降、繰り返し発せられた人流抑制で甚大な影響を受けてきた交通運輸・観光サービス産業ですが、感染防止対策の徹底と経済活動再開により、ようやく回復の兆しが見え始めてきました。昨年の10月に発表したJR東日本の中間決算でも3期ぶりの黒字転換となりました。また、通期の業績見通しを据え置いたことから、今後の見直しについても第8波の懸念はあるものの、回復基調に推移をしていくものと思われれます。

他方、JR貨物の中間決算は純損失を計上するなど厳しい結果となったものの「行動制限の緩和により物流についても今後回復見込んでいる」と言われています。

この間、JR各社は構造改革を推し進め、JR東日本では「変革2027」で見据えていた生産年齢人口の縮小による利用者数の減少などの厳しい経営環境がコロナ禍で早まったとして、施策のスピードアップが進められています。

昨年4月には「現業機関における柔軟な働き方」、10月には「会社組織の再編」とJR発足以降最大の組織改正が立て続けに行われ、ワンマン運転の拡大、みどりの窓口の配置見直しなどで、1,000億円のコスト削減をしたと公表しています。

職場では支社業務との「融合・連携」のセンター化により要員需給はひっ迫し、増収に向けたイベントが相次ぎ企画される中で深刻な事態となっています。この間、進められた「社員一人ひとりの働きがいの向上」とは裏腹に、社員のモチベーションは低下し自己防衛や離職する社員の増加など個人解決を選択する実態が多く報告されています。

こうした中、まもなく「23春闘」が始まります。ある民間会社の試算では「物価高の影響で22年度の家計支出は前年度に比べ9.6万円増、23年度はさらに4万円増える」とし、政府をして「企業が賃上げを実施しやすい環境整備を進める」としています。

国労の基本要請は1月28日に開催される中央委員会決定されることとなりますが、JR東日本に対する要求については、物価上昇による生活維持・改善、社員への投資、そして何よりも21春闘における定期昇給半減の回復を含めて検討に入ります。

その支えとなるのは組合員、社員の「声」です。ご承知の通り、JR東日本における労働組合加入率は依然として2割にとどまっています。労働組合の任務は「職場の耳であり、口でもある」と言われますが、その重要性は益々高まっています。不安・不満を受け止める最初の窓口となり、労働組合の必要性を訴える中から今春闘を取り組みましょう。

今年には統一自治体選挙が行われます。今後、「ご利用の少ない線区」のあり方についての地元との協議が本格化するものと思われれます。地域の実情に応じた交通体系の確立、私たちの声を反映させるためにも組織内候補の躍進に奮闘にしましょう。

結びに、各機関のご活躍と、組合員・家族の皆さまのご健勝とご多幸を祈念し挨拶に代えます。

# JR世代組合員学習交流会開催!

## 次世代を引き継ぐ組合員が結集し、意見交換

### 組合員どうしの 繋がりがから

### 働きやすい職場づくり

### 新たな仲間づくり

### 運動の継承・発展へ

国労東日本本部は、11月5日に東京大崎・南労政会館において、「JR世代組合員学習交流会」を開催しました。東日本管内からJR発足後に国労加入した若手組合員35名が結集し、学習・交流を深めるとともに、今後の組織運営や将来の組織のあり方についても議論が交わされました。

主催者あいさつで伊藤委員長からは「会社の組織再編など、これまでの枠組みでは対処できない事も懸念され、横のネットワークづくりは急務。交渉で訴えることができないのは組合しかない。仲間を孤立させない体制づくりには、今日参加の皆さんの協力をお願いする」などの訴えがされました。続いて国労本部・岩本書記長より国労を取り巻く情勢や取り組みなどが報告されました。

山岡弁護士（神奈川総合法律事務所）から「労働組合の役割と必要性」について、様々な視点・角度からの講演を受けました。

午後の分散交流会の提起は、JR世代の一人、和賀執行委員が行い「国鉄採用の方が退職していく中で、JR採用の私たちが運動を引き継いでいくことになる。今日の学習交流会は、横のつながりを作り、交流できる形を作ることが一つの目的。もう一つは、この繋がりを活かし、新たな仲間を作り、働きやすい職場を作るために、意見交換していくこと。今の『不安の解消』と職場で働く仲間、どうやって組合の取り組みを伝えていくか一つでも見つけてほしい」など交流の柱を訴えました。

昼食の後、5つに分かれて分散交流会を行い、



◆国労に加入して ◆組織拡大には ◆職場で困っていることなど、取り組みや個々の思いなどの突き合せを行いました。交流会の最後に武田書記長から、今後の組織体制や職協のあり方など、将来に向けた組織整備の提起がされました。

閉会のあいさつを、やはりJR世代の一人である彦田執行委員が行い「35名の仲間から率直な意見をもらい、今日の交流会は成功した。周囲の国労の仲間、次は一緒に行くこうと伝えてほしい。JR東日本の組合加入率は19%。それでも職場の問題を改善する窓口は組合しかない。国労は宣伝ベタ。存在を発信していこう。だれもが職場を良くしたいと思っているのだから」などの訴えがあり、戸田青年部長による団結がんばろうで交流会は終了しました。

## 分散会 報告

### 交流で出された

### これまでの経緯

### それぞれの

### 取り組み

### 今後への意見

### 加入した 経緯



危険さを感じ始めている。●組合に加入したら役員をやるようになるのが嫌だったが、誘ってくれた仲間が、俺がやるから大丈夫だと言ってくれた。

●5対1で一か月以上他労組加入のため呼び出され、ボールペンタイプのレコーダを準備した、他労組役員は駅の現金取扱い箇所に入ってきた、会社は何も言わない。初めての職場が比較的国労組合員が多い職場で親身になってくれた、他労組は一般組合員に情報が回らないが国労は情報がしつかり来る、世話役活動しすぎで過保護のところもある。

●職場に配属され、組合が違っても国労の人は親身になってくれ、温かさを感じていた。入っていた組合が職場に無くなり、組合はあったほうが良いと思、声をかけてもらった国労に加入した。

●入社時に他労組役員が来て、加入させられた。相談できるのが国労の先輩だった。学校も会社も教えてくれないことを国労の人が教えてくれた。他労組は何の解決にもならなかった。

●他労組と違い、国労は他労組の人や未加入の人のためにも運動をしている。●篠ノ井から東京へ転勤の時に、自分が入っている



る他労組ではなく、国労の人たちが送別会をやってくれた。●意見が言えない職場と組合だった。国労は意見を聞いてくれる。

●脱退・国労加入直後、若干の嫌がらせはあったが、先輩の助けがあった。不利益より利益のほうが大きかった。加入して不利益は無かったということも、もっと宣伝したほうが良い。

●国労の売りは、先輩方の面倒見が良いこと。国労の多い職場は居心地が良い。仕事が分らず、他の先輩に怒鳴られたとき、仕事を教えてくれた。●他労組にいい所は無かった。強制的に加入させられた。職場で国労の先輩が組合関係なく話してくれ、仕事もしっかり教えてくれた。

●国労は、他労組より、いろんな考え方を受け入れてくれる。

# 組合会議は短く合理的に

# 国労は他労組や未加入の人のためにも運動をしている

## 国労の人の送別会では世話になった人が組合関係なく参加している

## 組合行事が多く、組合過労



### これからのために 本音の分散会

#### 組織拡大を 意識して いますか？

- 2月にボーリング大会を企画。集まれる場を作るようにしている。
- 地方本部でレクなどを活発にやっている、職場で飲み会ができるようになり、やっぱりお金が大それたことになる。集まり話をする事が大切。
- 国労の人の送別会を開催。仕事の世話になった人たちが組合関係なく参加してくれる。参加者はこれまで組合費が無くなつたと喜んでいたり、最近では危機感を感じているようだ。調査物や新聞を渡
- 年末手当のアンケートを取るために飲み会を開催した。
- 後輩が急遽現場に出動。彼が持ってきた弁当を食べることに。弁当箱に加入用紙を入れて返した。
- 組合説明会を行っている。ちゃんと組合の説明をする。嘘はいけないと思う、仕事もやるし守るから、管理者から直接叱責させないと伝えている。自分の目の前の人を入れるという思いは有る。
- 仕事が出来なくては何となく、非番、休みを使つて後輩や未加入者と会う、脱退した人は守つてくれる人が居ない、今は連絡を密にしている。一方で家族サービスの時間が短くなり、皆さんはどうしているのか？
- 声かけ相談をやっている。上司は聞いてくれない。不満を組合が聞くといいことを知ってもらおう。
- これまで組合を知らなかった、お金の話が一番わかりやすい。
- 飲むとやっぱり話が弾む。
- 共通の話題、世間話からで良いと思う。
- レクに関連会社の子も



- 第一組合を抜けると不利益があると思ひ込んでいます。
- 加入成功例や失敗例を学習したら。
- 先輩がやっていたように、自分も世話役をやるうと思う。
- 少人数での学習会や飲み会が良いと思う。
- 近くに一緒にやってくれる仲間を作ることが大切。
- 国労が職場の課題に取り組み、良くするためにやっていることがわかる。ただ、国労の情報が周りに広がっていない。
- 拡大のタネをまいて、実にならなかつたことがあつて止まらなかつた。
- 今は何でもタブレットでやっていて、話しかけないで、という雰囲気がある。明けて疲れて何もできないこともある。そういう所から変えないといけない。

### 職場状況や 言いたいこと 耳の痛い話を



- 会社に業務知識は1（最低）と言われた。会社には、給料に見合った仕事しかできないと言っている、今年は昇進・昇格試験は受験しなかった。受ける価値がないと感じた。グループ会社は他労組から来た人が管理者をしている。
- 先輩に5年間頼っていた。今は自分に知識をつけて頼らないようにしたいが、本音では頼れる人が居てくれればと思う。
- 全てを一人で行うのはきついのは。
- 問題を起ささないことが大事な会社。責められるような言い方をされる。社員の為に動いてくれる管理者がいない。先輩がいなくなつた時に、どう
- 国労の人は出世欲が無い。自分に集中しない。だから人の面倒を見る余裕がある。
- 役員になると、時間が取られる。
- 貨物の検修職場は低賃金。人が足りず、技術継承ができない。
- 女性の意見を出せる雰囲気を作ってほしい。
- 国労は役員が代わらない。他労組は交代する。そこで組合の知識が少く人が多い。
- 自分たちはどうしていいのかわからないのか、105人で話し合う場を作ってほしい。全員が考えてほしい。
- 「私一人になつたら」の答えと解決策を。そして、一人じゃないという答えがほしい。
- 青年部長をやっている、いろいろ連絡しても帰ってこないときは孤立感を感じる。同じ人しか来ないのは悲しい。組合が面倒と思つている人がいると感ずる。無理やり呼んでもなあとと思う。
- 組合の会議は短く合理的にやる必要がある。
- 賃金を上げるには、組合より努力して上位職を目指すほうが良いと思つてしまうこともある。
- 各社員の、働きぶりを見るのか、組合を見るのか。自分は仕事で認めさせたい。



- 組合行事が多く、組合過労の状況。国労に入るとあなると思われる。
- 会社を変えようと思ひより、自分の身を犠牲にしてまではできない、という風潮がある。
- 国労に加入して、自分らしく活動できる。国労に入つたことを、周りが見ている。いろいろ聞かれる。だから勉強する。そして、自信が持てる。
- 女性社員が出勤に出され怒っている。夜遅くの勤務で子供のことを気にして労基署へ行った。個人解決。組合に頼らなくても、となつていて。その気持ちをつかむ努力が足りなかつた。
- 自分の時間を最優先したい。自分も個人主義か？拡大が進まないのは自分の怠慢もある。それでも、タブレットで呼びかけなどいろいろできることは有ると思う。拡大を意識したい。

# 労働安全衛生委員交流会開催!

## 国労の労安委員が労働環境改善に活躍!



これら職場では毎月、労働安全衛生委員会（以下、委員会）が開催されています。交流会に参加された福田弁護士からは

東日本本部は12月3日、新橋において労働安全衛生委員交流会を開催しました。現在、JR東日本では国労組合員が職場代表者に選ばれている職場はありませんが、グループ会社では10職場で職場代表に選出されています。また、職場代表にはなっていないが、JR東日本やグループ会社の職場で、労働安全衛生委員に選出されている箇所が多く存在します。

「委員会は重要事項を調査・審議できる。それについて、会社から意見を述べさせることもできる。会社は委員会の意見を尊重し、着実に実施するべき。聞き置くだけではだめ。精神的な健康保持も議題になりうる。パワハラ・セクハラ、長時間労働の防止なども重要なテーマ」などの説明があり、組合との団体交渉では解決されない問題でも、委員会で解決されることも多くなっています。

そのため東日本本部では、各職場で過半数を持つ組合が無くなった2018年以降、職場代表選挙や労安委員選出に向けて力を入れて取り組んできました。また、結果的に代表に選出されなくても、職場改善に向けて取り組む組合の姿勢を若手社員へと見せることにつながり、組織拡大への一つのツールと位置付けています。今回の交流会では、労安委員の組合員と各地本・地区本部の組織部長も参加し、各箇所での取り組みの突き合わせ・情報交換を行いました。

盛岡地方本部 美濃山さん  
職場過半数代表者選挙については、以前は組合員数より多い票が入ったが、今回は組合員数しか入らず、自分の意志による投票を呼び掛けている。労安委員は国労で一人出してほしいと要請された。委員会では国労が環境改善や安全問題についてリードしている。

仙台地方本部 高橋さん  
過半数代表者選挙で国労は他労組と話し合い、組織的に労働組合候補に投票し当選させ、国労からも労安委員を選出。3年間手付かずの粉じん対策・大型冷風扇設置など、現場長要請では改善されなかったものも改善に繋がった。

千葉地方本部 竜崎さん  
過半数代表者選挙では、この5年間、国労との話し合いで他労組が代表を取っていて、国労からも労安委員を選出。委員会の延長で職場内意見交換会を開催し「選挙が何故大切なのか」「棄権という形で自分の権利を放棄しないでくれ」などを訴えた。

水戸地方本部 一条さん  
運輸区などで労安委員に選出。「定年まで働き続けられる職場という国労の主張に同感し、委員会へ国労の参加を要請したい」と言われている。

神奈川地区本部 山本さん  
これまで、委員会のニュースが出ていなかったのが、発行させた。職場で小バエが減らないので、委員会で要望し、害虫駆除の散布剤を導入・改善。これまで、JESS横浜支店管内の4管区の全てで国労が職場代表になっていたが、3管区にとどまった。若手に職場過半数選挙や労安委員の重要性を教え、組合の存在感を出していく。

**がん保険にできることを、もっと。**

**No.1** アフラックがん保険 がん保険 がん保険 保有契約件数 令和3年度 インシデンス生命保険統計

**「生きるを創るがん保険」 WINGS**

1 幅広い保障で経済的負担をサポート  
治療前の検査から治療後の外見ケアまで幅広い保障でしっかり備えることができます。

2 付帯サービス＜アフラックのよりそがん相談サポート（※1）＞  
アフラックのよりそがん相談サポーターがさまざまな悩みの解決をサポート  
「がんかもしれない」と思ったときから専門知識を持つ相談員が親身にお応えします。

（※1）アフラックのよりそがん相談サポートはHatch Healthcare株式会社またはHatch Healthcare株式会社の提携先が提供するサービスであり、アフラックの保険契約による保障内容ではありません。サービスの詳細は、アフラックオフィシャルホームページ（<https://www.afac.co.jp/keiyaku/gansoudansupport.html>）をご確認ください。

（募集代理店）（アフラックは代理店制度を採用しています）  
**アベニール株式会社**  
〒110-0004 東京都港区新橋5-15-5 交通ビル3階  
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

（引継保険会社）  
AFツール-2022-0277-2210030 7月13日  
**Aflac** 「生きるを創る。」  
アフラック 東京第二法人営業部  
東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービル19階  
TEL.03-6385-9829 FAX.03-3218-3885

**本年もよろしく お願い致します**

東日本本部  
執行委員長 伊藤 隆夫  
執行副委員長 渡辺 信之  
書記長 中村賢太郎  
業務部長 武田 幸喜  
教宣部長 彦田 貴弘  
調査部長 常盤 達雄  
執行委員 中谷 慎一  
特執（貨物担当） 和賀 聖司  
特執（LIVIT担当） 中村 誠  
"（JESS担当） 丸谷 豊美  
"（青対担当） 竹内 康裕  
"（関東協議会担当） 木村 洋希  
"（関東協議会担当） 小菅 隆寛  
"（関東協議会担当） 飯田 智士  
青年部長 戸田 良輔  
会計監査員 塩澤 富世  
矢部 雄一  
飯島 英樹  
小磯 潤一  
書記局 沓澤 萌加

職能別協議会  
運輸協議会 議長 三留 英一  
運輸協議会 議長 岡野 浩  
運輸協議会 議長 佐藤 嘉明  
工務協議会 議長 保科 誠司  
工務協議会 議長 出羽 正則  
電気協議会 議長 清水 秀里  
電気協議会 議長 後藤 寿昭  
工作協議会 議長 加藤 英樹  
工作協議会 議長 白井 明男  
和田 裕文

貨物協議会  
東日本連絡協議会 議長 森岡 英夫  
東日本連絡協議会 議長 中村 誠  
関東協議会 議長 森岡 英夫  
東北協議会 議長 中村 誠  
東北協議会 議長 石戸谷 満  
自動車協議会 議長 木元 敏彰  
自動車協議会 議長 丸山 淳一  
自動車協議会 議長 兜森 秀昭

鉄道退職者会 関東・信越ブロック 会長 寺尾 勉  
事務局長 中村 宗一  
国労家族会 東日本連合会 会長 横山由美子